

横浜クリニック地域医療連携室レター

神奈川県歯科大学附属横浜クリニック地域医療連携室(045-313-5047)

平成 25 年 1 月(第 3 号)

横浜クリニック院長挨拶

「平成 25 年(巳年)を迎え、新・横浜クリニックの幕開けにむけて」



神奈川県歯科大学附属横浜クリニック
院長 井野 智

新年、明けましておめでとうございます。

「最新医療の提供と患者サービスの向上」を信条としてきた横浜クリニックとしては、開設当初に導入した医療設備も10年定額の減価償却を完了することを見据えて、新たな戦略を立て、舵を切り始めました。眼科のレーシック手術を支えてきたエキシマレーザーは、その役目を終えて廃棄処分となり、そのスペースは、健診患者さんのプライベート確保のための待機応接室として整備されつつあります。また、渡邊特任教授を中心に最新の上部・下部内視鏡(NBI)を導入するだけでなく、昭和大学・医学部附属病院から専門医チームを迎え入れてスタートした「消化器内科」も着実に実績を上げています。さらには、全身撮影用X線CT装置(2列)も、本年1月から、低被爆機能で高画質の最新機種(16列)に切り替え導入して、医科・歯科の健診部門の強化を図っています。

患者さんサービスとしては、昨夏、1階の売店を移設し、LED照明で明るくなった店内に専任の店員さんを擁した「コンビニ」へと生まれ変わりました。コンビニの誕生とともに、診療科スタッフが発行する院内専用の「(通称)歯ブラシ処方箋」が功を奏して、患者さんにご好評をいただいています。また、患者さんが両手で蛇口の水をすくって口をすすいでいた待合室の洗面台には「紙コップ」を設置するなどし、クリニックのスタッフ全員で、患者目線でのサービス改善を心がけています。

十二支の中の「巳」は、漢書(律曆志)では「止む」の意味の「巳」とし、草木の生長が極限に達して次の生命が作られはじめる時期と解釈されているそうです。11周年目に入った横浜クリニックは「新・横浜クリニック」の幕開けに向けた準備を少しずつ、そして、着実に進めているところであり、皆様のご支援を賜りながら、巳年にふさわしい1年となるよう心より願っております。私事ながら、巳年生まれのも、年男として新年を迎え、心機一転、更なる精進を誓い、心を新たにしているところです。

医科部門副院長挨拶



神奈川県歯科大学附属横浜クリニック
副院長 渡邊 浩之

我が国は経済再生をかけて2013年をスタートしました。

昨年の統計によりますと日本人の悪性新生物の部位別死亡率で男女とも大腸がんが増加し、女性では胃がんを抜いて1位になりました。日本人の大腸がんの増加は脂質の摂取量の増加や肥満など関係があるといわれています。

大腸がんは初期では無症状のことが多く、昨年は便潜血検査の無料キャンペーンを行い83名のうち6%の2回陽性者が出て、手遅れにならずに手術できた進行大腸がんの方がみつかりました。大腸がんは早期に発見して治療すれば怖くはありません。我々横浜クリニックはより多くの方がたの健康に寄与できるようにスタッフ一同頑張っていますのでよろしくお願いします。

目次

院長挨拶	1
医科部門副院長挨拶	
口腔外科科長挨拶	2
CT新規機器紹介	3
看護師による病棟紹介	4
衛生士による口腔ケア	
検査部門の紹介	
(臨床検査科・視能訓練士)	5
人間ドック紹介	6

地域医療に貢献できる歯科口腔外科をめざして

歯科口腔外科科長 松本剛一

新年あけましておめでとうございます。本年も横浜クリニック歯科口腔外科をよろしくお願いいたします。

昨年は地域医療連携室と協力して歯科口腔外科と近隣の医療機関との診療協力体制を構築する努力をしてきましたが未だ十分なものとはいえません。そのため本年は協力体制をより一層充実させる必要があると考えています。そこで歯科口腔外科は何をするべきかということを考えたいと思います。昨年の広報誌では「横浜クリニック歯科口腔外科の Re-Born」と題してこれからの歯科口腔外科の方向性についてお話をさせていただきました。今回はさらに一步踏み込んで横浜クリニック歯科口腔外科のあるべき姿について考えてみたいと思います。歯科口腔外科診療における手術を中心とした治療は耳鼻咽喉科、形成外科など重複する領域も多く、その場合は術式や手技において、耳鼻咽喉科や形成外科、歯科口腔外科の区別なく全く同じ医療が行われているのが現状です。それでは歯科口腔外科医存在意義など全くないこととなります。歯科医学を学んだ口腔外科医にしかできない、独自の手術や治療法が実践できる領域を確立することで口腔外科医の必要性が認められるのではないかと考えます。既に顎変形症治療を挙げていますが、さらに今年からは歯科インプラント科と協力して、歯科インプラントを応用した顎口腔機能の再建外科を診療の柱に加えたいと考えています。また顎口腔機能再建は「口腔リハビリテーション」と深く関係していると考えていますので、機能的咬合の回復だけでなく、その後の口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて摂食嚥下機能などについても評価が行えるチーム医療を行いたいと考えています。

また医科のなかの歯科を考えた時、糖尿病、肥満、心血管障害、脳血管障害、骨粗鬆症、睡眠時無呼吸症候群、金属アレルギーなどの内科疾患や皮膚疾患の治療や予防への歯科としての参画は「健康医学」への貢献として重要な項目と考えています。また歯科と医科との境界領域にあると考えられる口腔粘膜疾患や口腔心身症などの治療については、口腔だけではなく全身状態を考慮した診断や治療を行うために、横浜クリニック医科部門、あるいは近隣の医科医療機関と協力しながら、歯科医師としての専門性を発揮した治療を行うことが横浜クリニック歯科口腔外科のあるべき姿ではないかと考えています。これからも横浜クリニック歯科口腔外科をよろしくお願いいたします。

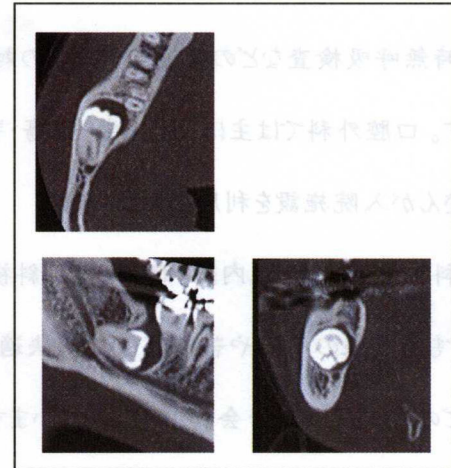
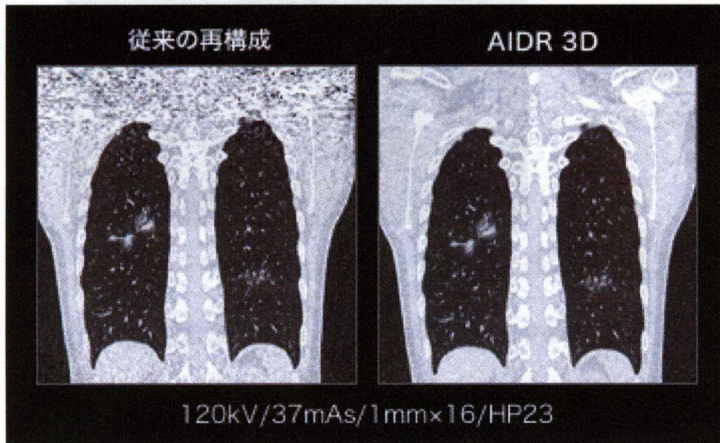


放射線科よりお知らせ ～新しいCT機器紹介～

当クリニックに於いて2013年1月より東芝メディカル社製16列CTが稼働します。

いままでの当院にあったCTに比べ、撮影時間は半分ほどになりますので、患者様の検査時の息止めはだいぶ楽になると思います。胸部の検査で10秒程です。

スライス厚は全身用CTとしては世界最小の0.5mmですから、インプラントのOpe前検査にも有効ではないでしょうか。逐次近似再構成法の原理を応用した画像再構成により、被曝線量もより少なくなります。



人間ドックのオプションにもなっている、低線量肺がんCT検診が特にオススメです。

胸部単純X線写真では見逃してしまうような淡い腫瘍がCTでは、はっきりと確認できます。しかもメーカーによると被曝線量は5.43mGy(CTDIvol)と腹部単純X線検査と変わらないほどの低線量です。

当クリニックにはMRIはありませんが、MRIとCTとの比較のお話をさせていただきます。

CTではできなかった急性期の脳梗塞の診断がMRIで可能であることから、MRIの方が診断能力は高いものと思われる方もいるようですが、それぞれ得手不得手があります。

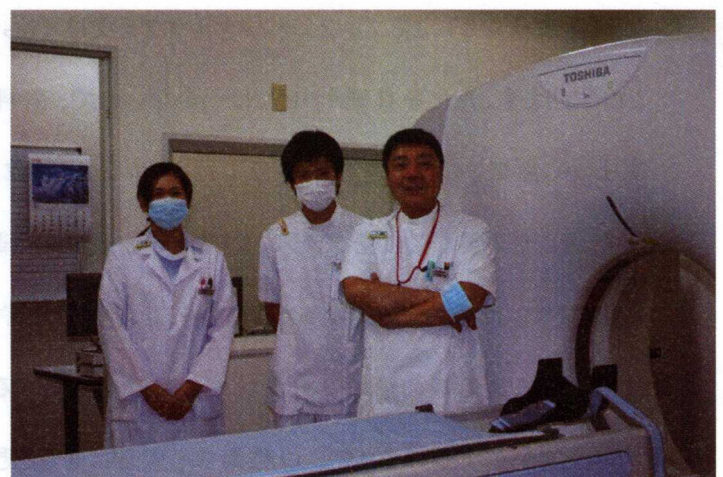
MRIは内臓や筋肉、椎間板などの軟組織の描出に優れていますが、骨や歯などの硬組織や空気を含む肺はCTの方が得意とされています。また空間分解能、時間分解能はCTの方が優れています。

椎間板ヘルニアの診断にはMRI、脊椎骨折の疑いがあるときにはCTなど、実際は疾患によりどちらの検査を行なうかの適応があります。

MRIの最大の利点として、X線被曝が無いことがあげられます。

しかしながらMRI検査を受けることができない方がいらっしゃいます。

手術後など体内に金属がある方やペースメーカー等の医療機器の装着者のMRI検査は禁忌となっていますし、多くはないですが閉所恐怖症の方など、MRI検査の状況に耐えられない方もいます。



このような理由から、当院ではMRIではなくCTを設置することにした次第です。

皆様のご要望に可能な限り応えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

病棟紹介について

病棟では、19床のベッドがあり、1日入院～短期入院の患者さんを受け入れております。口腔外科・眼科の手術患者さんや日帰り入院で障害者歯科・内視鏡検査のほか、1泊2日で睡眠時無呼吸検査などの検査入院などの対応もおこなっております。口腔外科では主に、埋伏歯・腫瘍・顎変形症などの患者さんが入院施設を利用されています。



眼科の手術では、白内障・眼瞼下垂・斜視などの入院を受け入れております。入院から退院までの間、少しでも患者様の不安や苦痛がないよう快適な療養環境作りを心がけております。短期入院の患者さんがほとんどのため、「一期一会」を大切にしています。看護師ひとりひとりが「笑顔を決やさず」をモットーに、患者さんの思いに寄り添えるよう看護しております。

口腔ケアについて

口の中の健康管理を口腔衛生と言い、歯につけている汚れや歯石を除去して虫歯や歯周病の予防を行う事を一般的に口腔ケアと言います。その場合は、近隣の歯科医院へ行き、歯科衛生士などによるプロフェッショナルケアを受けてもらうことになります。ただ毎日通うわけにはいけないので、歯科衛生士から歯磨きの仕方を習い自分で行うセルフケアも重要



です。そこで必要なのは歯ブラシになりますが、最近では選択肢として従来の歯ブラシと電動歯ブラシに大別されます。口腔の状況によっては補助的な清掃用具や洗口剤も必要となるでしょう。また、インプラントや歯列矯正など治療の後の良好な口腔の健康を維持する事や、年齢別や全身状態を考慮したメンテナンスなどもかかす事のできない口腔衛生、管理になると思います。当横浜クリニックにおいても、各科歯科衛生士による口腔衛生管理、口腔機能療法などの指導も行っています。

検査部門の紹介

臨床検査科について

臨床検査科は、歯科及び医科の診療に関わる検査及び健診の検査、健診報告書の作成を担当しています。検査は、検体と生理検査になりますが、検体検査の尿、血液の至急対応と、生理検査の心電図、肺機能検査の至急のみならず、上腹部を含めた種々の部位の超音波検査も至急対応を行っています。その他の生理検査として、終夜睡眠脳波(PSG)の装着・判定、CPAP治療の導入、聴覚の精密検査、味覚、嗅覚、平衡感覚(めまいの検査)の精密検査などを担当しています。昨年末には、健診業務の充実のために血圧脈波検査、骨塩定量(超音波法:骨密度)も始まりました。特に血圧脈波検査は、従来から行っていた頸動脈超音波検査と共にメタボリックシンドロームの動脈硬化などの判定に役立つと思います。

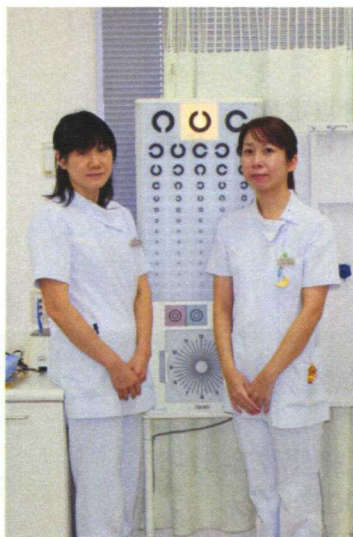
検体・生理検査は、外部からの依頼に対応出来るシステムになっております。地域の医療機関、事業所の皆様と検査による連携がより発展出来る事を願っています。



視能訓練士とは…

視能訓練士(Orthoptists)は、昭和46年に制定された「視能訓練士法」という法律に基づく国家資格をもった医療技術者です。眼科で医師の指示のもとに眼科一般検査を行うと共に、斜視や弱視の訓練治療にもたずさわっています。神奈川歯科大学附属横浜クリニック眼科には、常勤2名、非常勤1名の視能訓練士が勤務しています。

眼科一般検査とは、視力、屈折、眼圧、視野、調節、色覚、光覚、眼位、眼球運動、瞳孔、超音波、電気生理学、写真の撮影検査などのことです。また、白内障手術や斜視手術、眼瞼手術の手術前検査を行っています。これらの検査によって得た正確な検査結果が適切な診断治療につながることから、眼科診療チームの一員である専門職として認められてきました。また、斜視弱視の視能訓練は、乳幼児の斜視、弱視の患者さんに視力と両眼視機能を回復させるための視能訓練及びこれに必要な検査を行っています。



人間ドックのご紹介

■ 横浜クリニックの人間ドックの特徴

- ◇ 一日の受診人数を数名単位で行っておりますので、ゆっくりと受診していただけます。
- ◇ 内科の診察とともに眼科医師による診察も行っております。(半日ドック・眼科検診コース)
- ◇ 内視鏡は最新の機器を導入しております。

コース内容

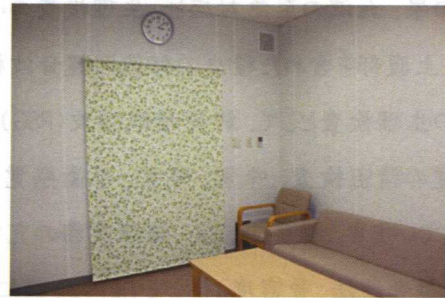
検査料金(税込)

半日ドック

基本コース	50.000 円
動脈硬化と胃・食道検査コース	50.000 円
肺がん検診コース	50.000 円

クイックドック

クイックドック	15.000 円
眼科検診コース	20.000 円
超音波検査コース	25.000 円
胃透視または胃カメラコース	25.000 円



↑ 4階 健診待機応接室
模様替えしました

※ 健診時間・料金により選択が可能です。各種オプションがございます。詳細はお問合せ下さい。

■ 人間ドック及び企業健診のオプションに新規検査が追加されました

血圧脈波検査：1.000 円(税込) 動脈硬化（血管年齢）を四肢（手首・足首）の血圧及び脈波により検査いたします。

骨塩定量（超音波法）：800 円(税込) 踵に超音波を使用して骨密度の検査をします。



神奈川歯科大学附属横浜クリニック
〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町 3-31-6

TEL:045-313-0007 (代)

FAX:045-313-0027 (代)

Mail:chiiki-irenkei@kdcnet.ac.jp

URL:http://www.hama.kdcnet.ac.jp